

## インターバンクの声（2017年6月28日）

東京の昼前には久々に112円07銭まで円安・ドル高が進んでいた円相場だったが、一旦利益を確定させたい人たちのドル売りが強く、ロンドン市場の早朝には再び111円台中盤近くまで下落した。

さらにドラギ ECB 総裁が講演で、「ユーロ圏の景気回復が広がっている」と発言したことが伝わると、ECB が量的緩和からの出口戦略に早晩着手するのではとの観測からユーロ買いが強まり、そのあおりを受けて円買いがさらに進んだ。

この動きを見れば、やはり円相場の112円台に留まる時間は今回も短いかと思っただけ、米金利の上昇と堅調な米経済指標に支えられたドルの買戻しが予想以上に続き、111円40銭台から1円もドル買いが進むとは思わなかった。

この後、米国の第一四半期・GDP 確報値や個人消費も堅調となれば、ドルの続騰も考えられるが、昨夜の米株式市場がオバマケア代替法案の採決先送りに反応して下落したように、トランプ大統領の政策遂行の懸念の広がりを考慮すると手放しのドル買い続行も難しそうだ。

---

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複製もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。